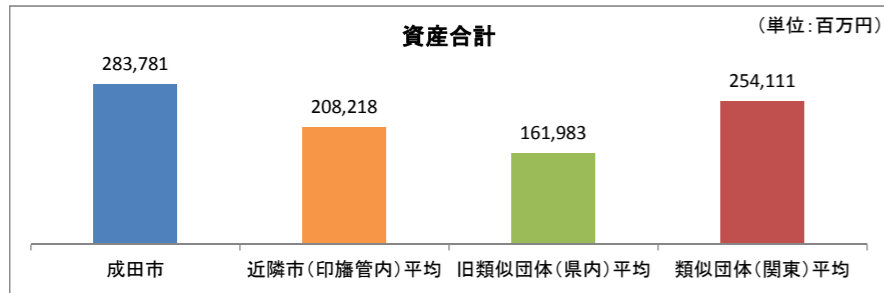


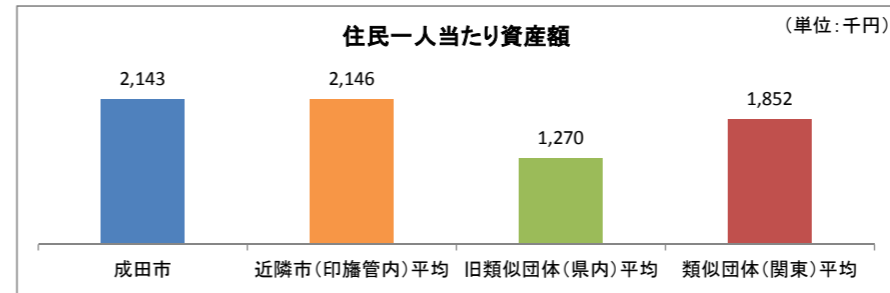
平成28年度決算に基づく財務指標分析シート（連結ベース）※ただし、基礎的財政収支は全体ベース



資産合計(貸借対照表)

本市が所有する資産です。庁舎・学校等の事業用資産や道路・公園等のインフラ資産などの固定資産と、現金預金や基金などの流動資産があります。

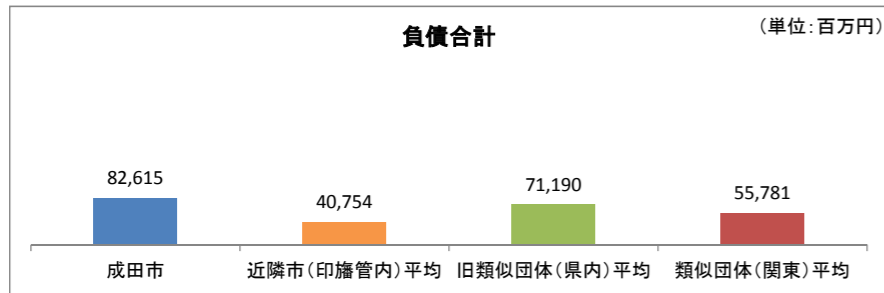
他団体と比較して、保有資産が多くなっています。特に公共施設等の有形固定資産が多いことが要因であると考えられます。



資産合計/住民基本台帳人口(132,409人)

資産額を住民基本台帳人口で除して、資産が住民一人当たりいくらあるのかを表した指標です。

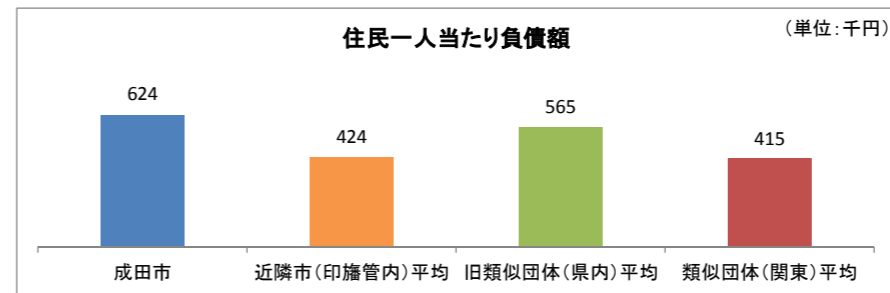
一人当たり資産額においても資産額の大きさが表れています。



負債合計(貸借対照表)

借入金や将来の職員の退職金など、今後負担していかなければならない債務です。

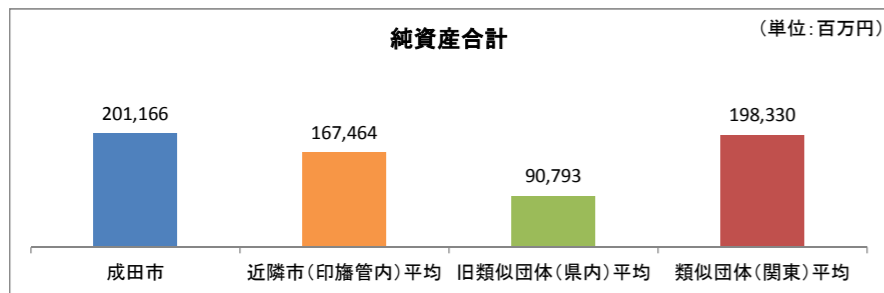
大型事業の進捗により、市債残高が増加しており、他団体と比較して負債額が大きくなっています。



負債合計/住民基本台帳人口(132,409人)

負債額を住民基本台帳人口で除して、負債が住民一人当たりいくらあるのかを表した指標です。

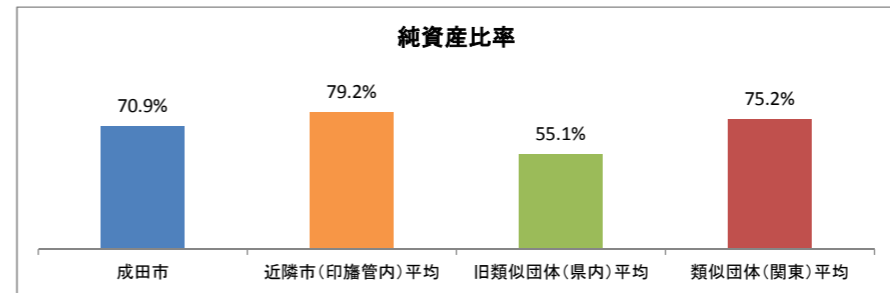
負債合計と同様に、一人当たり負債額においても負債残高の増加が表れています。



資産合計-負債合計

現在までの世代が負担した金額で、将来の負債を伴わない正味の資産です。

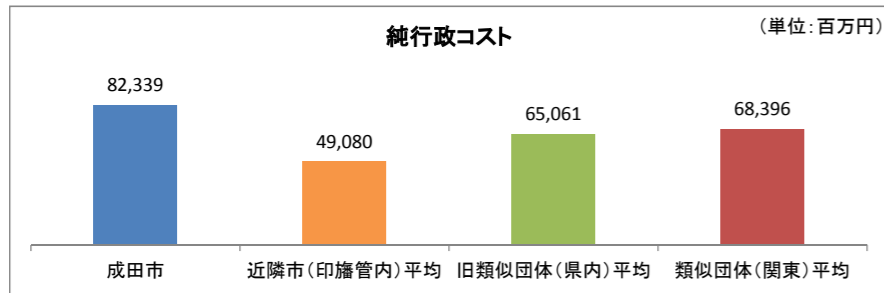
資産合計が大きいことから、純資産合計も他団体と比較して大きくなっています。



純資産/総資産

企業会計の「自己資本比率」に相当するものであり、総資産のうち返済義務のない純資産の割合であり、この比率が高いほど、財政状況が健全であるといえます。

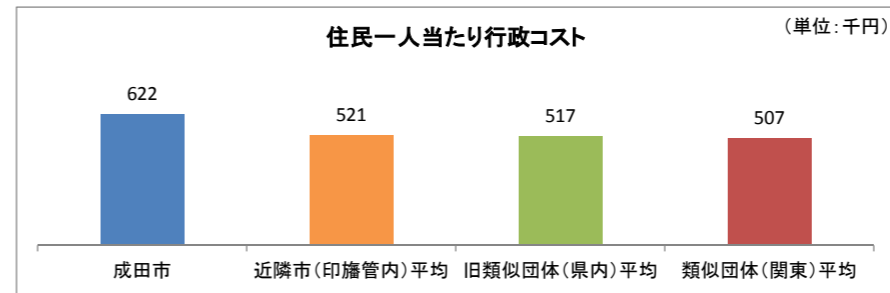
純資産比率は70%を超えていますが、総負債額が比較的大きいため、近隣市(印旛管内)や類似団体(関東)の平均値よりも低くなっています。



経常費用-経常収益+臨時損失-臨時利益

人件費や社会保障給付などの経常費用から、使用料や手数料などの経常収益を引いた純経常行政コストに対し、臨時損失、臨時利益を考慮したものが純行政コストです。

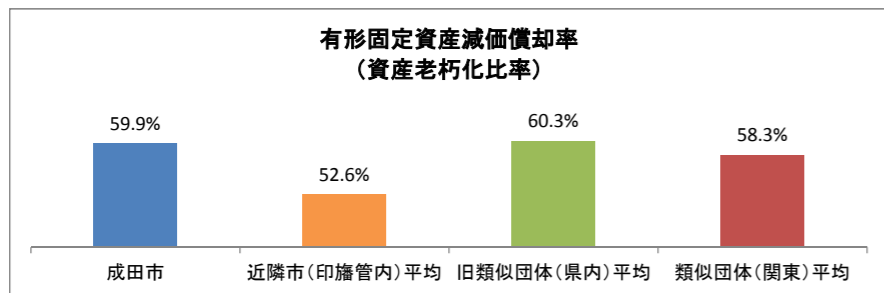
他団体と比較して純行政コストがやや高くなっています。その要因としては、他団体よりも補助金等の金額が大きいことが考えられます。また、資産合計が大きいことから、経常費用における減価償却費の金額が他団体と比較して大きくなっています。



純行政コスト/住民基本台帳人口

行政コストを住民基本台帳人口で除して、行政コストが住民一人当たりいくらかかっているのかを表した指標です。

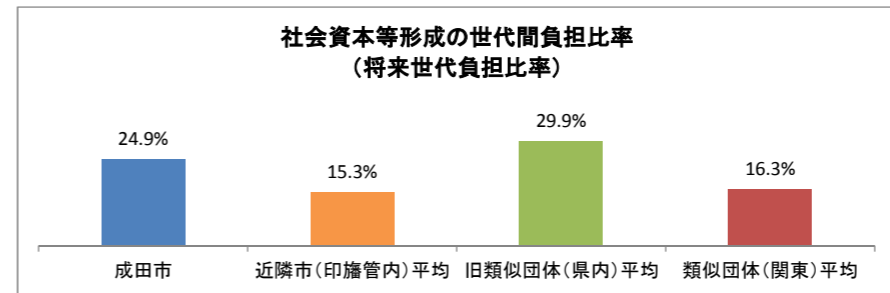
純行政コストと同様に、一人当たり行政コストもやや高くなっています。なお、特に大きなコストとして、補助金等、物件費、減価償却費、職員給与と費が挙げられます。



減価償却累計額/有形固定資産取得価額計

有形固定資産のうち、償却資産の取得価額等に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に比べて、どの程度年数が経過しているか(老朽化しているか)がわかる指標です。

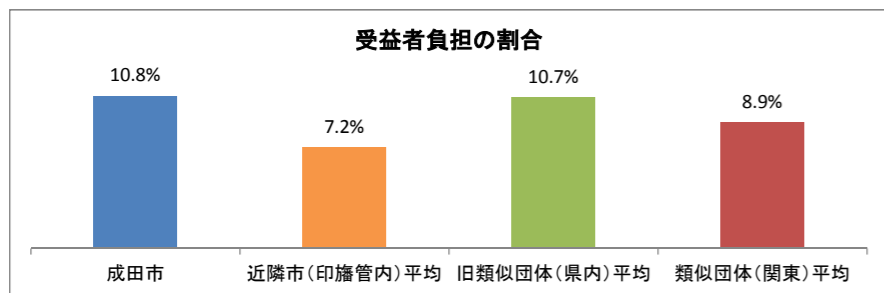
本市の資産老朽化比率は59.9%とやや高く、各施設の老朽化が進んでいることがうかがえますが、適正な範囲内であると考えられます。



地方債残高/有形固定資産

社会資本等の財源のうち、将来の償還等が必要な負債が占める割合を算出することにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比率を把握することができます。この比率が高いほど、将来世代の負担が大きいのを示しています。

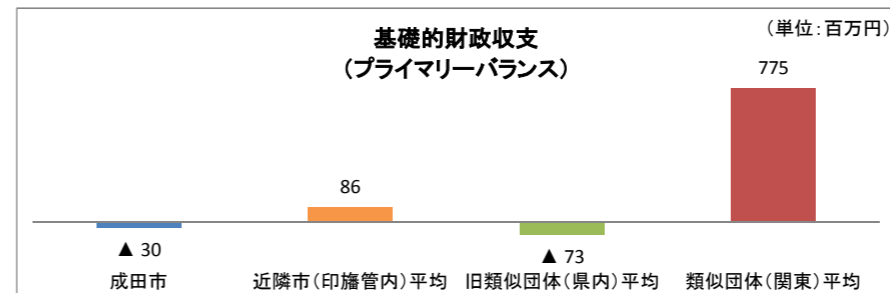
県内旧類似団体が高い値を示していますが、本市の比率もやや高い値を示しています。



経常収益/経常費用

経常収益は、使用料、手数料など行政サービスにかかる受益者負担の金額であり、これを経常費用と比較することにより、行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を表した指標です。

本市は、使用料・手数料以外の諸収入等が多く、その結果、受益者負担の割合が他団体より高くなっています。なお、この要因となる諸収入を除いて比較すると、他団体と同程度の割合となります。



業務活動収支(支払利息支出を除く)+投資活動収支

地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債発行収入を除いた歳入のバランスを示す指標です。

投資活動支出の増加、すなわち新規資産形成による支出の割合が他団体に比べてやや大きいことにより、マイナスの値になっていると考えられます。マイナスの状態が今後も継続しないか、注視していく必要があります。

【総括】

類似団体(関東)と比較して、資産老朽化比率がやや高く、また、将来世代負担比率も高い傾向にあるため、今後はインフラ資産や事業用資産等の更新費用負担等を考慮した計画的な整備を進めていく必要があります。

また、これらの状況に加え、資産合計額が他団体と比較して大きいことから、この資産に係る減価償却費が行政コストを増大させていると考えられます。今後の施設整備等においては、資産の増加に伴う減価償却費などの維持管理経費が大きくなることも踏まえつつ、管理する資産の規模が適切かなど、公共施設に関する総合的な管理を適切に行っていくことが必要です。

※旧類似団体(県内)とは、国勢調査をもとにした人口と産業構造(産業別就業人口の比率)による市町村の分類により、平成27年度決算において成田市と同様にⅢ-1に分類されていた千葉県内の3団体をいう。

※類似団体(関東)とは、国勢調査をもとにした人口と産業構造(産業別就業人口の比率)による市町村の分類に基づき、平成28年度決算において成田市と同様にⅢ-1に分類された関東地方の団体のうち、統一的な基準に基づく平成28年度決算の連結財務書類を公表している6団体をいう。